



5月号(No.2)

2024年4月25日

# 帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

## 子どものがんばりが好きです！ 新年度

帝京大学小学校 校長 石井卓之

進級した4月、子どもたちは目を輝かせて色々なことに取り組んでいます。

学年末の3月、スクールバスの車内で大きな声を出したり他の子どもに手を出したりするなどして度々指導を受けていた子どもが、この4月になってからはきちんとルールを守っています。担当の教員からは、「乗車していることに気づけなかった。」という声上がるほど整然と乗車しています。

私は毎朝7時40分頃から昇降口で子どもたちの登校を出迎え、挨拶をしています。月曜日は荷物が多いこともあり、上履きを忘れる子どもが多くいます。特に3月は1日に10足近くのスリッパを貸し出したことがありました。ところがこの4月は、多いときでも2足でした。各学年、よい緊張感があります。

6年生は登校すると、1年生の朝の生活のサポートをします。靴箱に外靴を入れて、上履きに履き替えるルール(上段と下段の使い方)や朝の準備の仕方を教えるなど、けっこう忙しく時間を過ごしています。ここでの関わりが、6年生と1年生を結び付け、1年生にとって憧れの6年生となる素適な期間だと感じています。特に、外履きのかかとをしっかりと揃えることが重要となります。今6年生は、できていない1年生の靴を全部直してくれています。私はその行動に感謝の言葉を述べながら、「6年生が直さずに、1年生ができるようにする方法はないかな。」と課題を提示しました。「学級で全体に話してみます。」と答えてくれた6年生がいました。「自分の頭で考える」、そんな話し方に期待しているところです。実は以前、私が6年生の担任をしたときに、6年生が1年生のサポートをするこのシステムをなくすことを提案したことがあります。幼稚園や保育園などで、それぞれの最年長として色々なことを自分たちで行っていたのに、小学校に入ると何もできない、分からない存在だと決めつけて役割を奪うことが、自立を妨げているのではないかと感じたからです。提案が通り実施したところ、自立した子どもがいた反面、ルールが理解できずに困り感をもった子どもも多く、全体としてはよい取り組みではないことが分かりました。また、6年生と1年生の関わり方の視点も抜けていました。

今年度からリニューアルした学校のホームページにも、この朝の一コマがありますので、是非ご覧ください。

各教科の教員からの報告にも、授業態度のよさが上がってきています。子どもたちのリスタートに対する意欲や態度の現れだと感じています。次のステップは、中だるみを起こさずに、粘り強く今の取り組み方を継続することです。

教師の授業力の向上と子どもたちのがんばり、両輪で進んでいくことが必要だと考えています。

会計・監査ジャーナル 2024年5月号(第一法規)に昨年度の4年生が行った「公認会計士による小学生のキャリア教育」が紹介されました。公認会計士の方が、本校の4年生の学びの深さに驚いていたことがうれしかったです。

## 今年度着任した先生の紹介

3年生の理科を担当します。理科では、子供たちが抱いた自然への不思議と思ったことや疑問、気付きを大切にして、自ら進んで確かめたり、調べたりする活動を大切にします。どうぞよろしくお願いたします。



《教諭 叶 雅之》



2年2組の担任を担当します。今2年生は、「1年生のお手本になりたい。」「バスリーダーになりたい。」と意欲旺盛、元気いっぱいキラキラ輝いています。一人ひとりそれぞれの「キラリ」をたくさん見つけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願致します。

《教諭 佐々木 秀子》